

令和 6 年度  
第 2 回 南相馬市総合教育会議

令和 7 年 1 月 2 4 日（金）

南 相 馬 市

## 第2回 南相馬市総合教育会議 会議録

1 開催日 令和7年1月24日（金）

2 場 所 市役所 東庁舎2階 第一会議室

3 会議時間 開会 午後 2時00分  
閉会 午後 3時30分

### 4 出席者

|     |        |
|-----|--------|
| 市 長 | 門馬 和夫  |
| 教育長 | 大和田 博行 |
| 委 員 | 高野 恵以子 |
| 委 員 | 金子 まゆみ |
| 委 員 | 和田 菜子  |
| 委 員 | 山邊 彰一  |

5 欠席者（なし）

### 6 説明のため出席した者の職氏名

（教育委員会事務局）

|                |        |           |       |
|----------------|--------|-----------|-------|
| 教育委員会事務局長      | 宝玉 光之  | 次長兼教育総務課長 | 大石 雄彦 |
| 教育総務課課長補佐兼総務係長 | 加藤 安枢子 | 参事兼学校教育課長 | 矢内 信男 |
| 教育企画担当課長       | 熊坂 真利  | 参事兼指導主事   | 村上 潤一 |
| 生涯学習課長         | 鈴木 隆一  | 生涯学習係長    | 立谷 誠浩 |

（復興企画部）

|        |       |        |       |
|--------|-------|--------|-------|
| 復興企画部長 | 横田 美明 | 企画課長   | 寺島 政博 |
| 企画課係長  | 内城 弘志 | 企画課副主査 | 佐藤 亮  |

7 傍聴者（ 名）

### 8 本日の会議に付した報告事項

（1）令和7年度南相馬市行政経営方針について

### 9 本日の会議に付した協議事項

- （1）令和7年度に向けた学力向上施策について
- （2）家庭教育の充実について
- （3）国際バカロレア導入指針（暫定版）について
- （4）その他

## 10 本日の会議に付したその他事項

令和7年度第1回南相馬市総合教育会議の開催について

### 【配布資料】 別添のとおり

- (1) 会議次第・名簿
- (2) 令和6年度第2回南相馬市総合教育会議について 資料1
- (3) 令和7年度南相馬市行政経営方針について 資料2
- (4) 令和7年度に向けた学力向上施策について 資料3-1
- (5) 令和7年度の学力向上に関する事業 資料3-2
- (6) 学習塾連携事業 資料3-3
- (7) 家庭教育の充実について 資料4
- (8) 国際バカロレア導入指針（暫定版）（案） 資料5-1
- (9) 国際バカロレア(PYP)の学びの例 資料5-2
- (10) 学校適正化の経過及び進捗状況について 追加資料

午後2時00分 開会

### ■市長

暫時進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

時間の目標は午後3時半までの1時間半ということになっております。

それでは、次第に従いまして、まず報告事項「(1) 令和7年度南相馬市行政経営方針」について、事務局から説明をお願いします。

### (企画係長 説明)

### ■市長

以上であります。委員の皆様からご質問、ご意見等ございますか。

報告事項であります。例えば教育・子育ての分野では教育水準を向上させたいと市として考えている中で、キーワードとして、学力の向上、民間学習塾等との連携、バカロレアという言葉を挙げている旨の報告です。

今回は協議事項として、この3点について、これからご説明申し上げたいと思います。

次に協議事項に入ります。

教育長、協議事項ごとに進めたほうがよろしいでしょうか。

### ■教育長

協議事項(1)と(2)は関連があると思われますので一緒に良いと思います。

### ■市長

わかりました。

それでは、協議事項（１）「令和７年度に向けた学力向上施策」及び協議事項（２）「家庭教育の充実」について、事務局から説明をお願いします。

（学校教育課長 説明）

（生涯学習課長 説明）

## ■市長

ありがとうございました。

令和７年度から新規に行う事業など、それぞれご説明申し上げました。

委員の皆様からご質問・ご意見を順番に受け付けて、まとめて回答したいと思います。どなたかご発言ありますでしょうか。

## ■和田委員

学力向上の話で、現実的なものが挙がってきて「良いな」というのが率直な感想でした。ただ、中学生に対して、大学受験への意識付けということですが、この地域は高校が少なく、県内の他地域と比べるとレベルが低くなってしまい、中学生まで「何となく高校に入れる」という意識でいると目標が定めにくく、頑張りきれない状況があるのかと思いました。

ただ、このハイレベル講座もすごく良くて是非やっていただきたいですが、同時に勉強を頑張った後の目標を近い将来で定められたら良いと思います。

例えば、この地域だと原町高校が学力では一番高いと思いますが、更にその上を目指し、私立を受験する形になったら寮の補助を行ったり、中学校で勉強を頑張った子に対する、スポーツ推薦のような狭き門のポスティングを受けてもらうとか、近い目標を定められると良いと思いました。

また、中学校において、諦めない気持ちとか、頑張る気持ちを作りやすいのは部活動だと思います。学校によっては人数が少なく、できる機会がないこともあると思いますので、スポーツや文化部に関わらずやはり複数校で連携して部活動をしたり、地域移行も進めて行ったら良いと思います。

## ■市長

回答は後ほどいたします。

次の方をお願いします。

## ■高野委員

学習塾バンク事業についてですが、説明会には１５の学習塾が参加されたとのことですが、市内にどのくらい学習塾があるのでしょうか。

## ■生涯学習課長

基礎調査として、インターネット等から情報を集め、まず５２件抽出しました。その後、現地調査等の上、うち３１件を既存の学習塾として捉え、通知を送りました。

しかし、中には既に廃業したなどの回答もありまして、実際には31件よりも少ない状況になっております。

そのほか、無回答というところもございましたので、そちらに対しては、改めて説明会資料を発送しまして、塾を経営しているかの有無も含めてフォロー調査をしているところです。

## ■市長

その他ございますか。

## ■金子委員

P T A・学校・教育委員会の連名で文書を配布して啓発することについて、良いと思いますが、保護者さんはもちろん、子供たちに今南相馬がどのくらいの位置にいて、今こういう状況だからみんなで頑張らないといけないということを認識してもらうことがすごく大事だと思います。

続けて学習塾連携事業についてですが、私の経験になってしましますが、部活動で上位大会（全国大会等）まで行かないと夏休み前に部活動が終わってしまって、夏休みの時間を遊んだりして無駄にってしまう生徒が多く、新学期が始まったときには学習が手遅れという状態を自分が二度経験したので、希望としては9月ではなく夏休みにやってもらいたいと思います。

## ■市長

わかりました。回答は後ほどいたします。

次の方をお願いします。

## ■山邊委員

学力向上に関する事業のうち「施策1 児童生徒の学力格差の対応」に関連しますが、相馬地方の児童・生徒を考えたときに、学力差が大きい中で上位児童・生徒に対する方策を立てることも一つだろうし、一方で学力がなかなか追いつかないというお子さんにも自立していくための見通しを持たせるために下位児童・生徒や発達障害等への支援をすることもとても重要な対応なのではないかと思っています。

震災後、南相馬市では10数名の学習支援員で始まったと思いますが、現状50名弱まで広がり、現場としては増員というのは喜んでいるところではありますが、各校を回るとやはり特別支援学級に在籍している児童・生徒数の増加と、各学級において特別支援を要する児童・生徒が増えている状況があると感じました。

そういう意味では、学力を上げるという点は大事ですが、下位中位くらいの子供たちが自分の目標を持って、自立できるための方策を作っていかなければならない。そこで保護者の経済状態が影響してくるのではないかという思いもあります。そうなる、学習塾連携や保護者・生徒に対する対応というのは大事と思いました。

もう一つ付け加えるならば、生涯学習課の方で行う学習塾バンク事業がありますが、例えば「実際に学びたい」「違う職種に行きたい」けれども、母子家庭・父子家庭や低

所得により塾に行けない家庭に対し、生活保護はともかく、進学に対する補助が大事なのではないかと思います。

また、県教委の方でも地元採用の教員を多く取っている状況ではありますが、高校時点で介護系や福祉系の学校に進学を希望する方には市で補助を出す制度があったと認識していますが、教員や幼稚園の先生を志望する家庭へも補助を出せば若い人が地元に戻ってきて、将来に繋がっていくと思います。

## ■市長

ありがとうございます。

これまでのご意見・ご要望について、事務局から回答をお願いします。

## ■学校教育課長

まず、中学卒業後の目標設定の件ですが、昨年より高校との連携を意識して授業を行っています。一例として原町高校では、医療コースや教育コースといったコース制ができました。医療コースでは医療現場を見せたり、教育コースでは学校行事に参加してボランティアしたり、先生の授業研究会に参加したりしています。

意欲を持って学ぶ高校生をこの地区としても育てていきたいというところで我々も全面協力したいということでスタートしました。その他、小高産業技術高校でも面白い取組をしていますが、子供たちにとっては高校でどんな勉強するのか分からないという実態もあります。

このため、早い段階（小学生等）で高校の良さや取組を実際に体験してもらうようなことができないかを教育長も含め模索しているところですので、高校と連携しながらそのような機会を設けることができないか検討していきたいと思います。

相馬農業高校についても、今年度協定を結び、市の学力向上教員が相馬農業高校へ赴き、学習支援を行っています。一方で、今度は相馬農業高校が持っている良いコンテンツについて、例えば中学三年生に対する体験入部を実施していますが、それだけではなく、もっと早い段階（小学生）で経験させたりすることで、何か将来の夢や目標を与えられるのではないかと考えています。

続いて、部活動の地域移行についての件ですが、後ほど村上参事より説明させていただきます。

続いて、PTAと連携して文書配布を実施する件です。こちらは令和7年度にPTAの皆様と話し合う場を設けて、まずは生活習慣（早寝・早起き・朝食）の話から始まり、子供たちの夢を育てることができるよう前向きな内容を、保護者の方に一筆書いていただいて、子供たちに読んでもらえるような取組を進めていきたいと考えております。

続いて、ハイレベル学習講座の件です。夏休みのはじめに実施した方がより効果が得られやすいのではないかとのご意見については、運営業者と交渉はしていますが、運営業者にとっては夏休みが書き入れ時であるため人員を出してくれない事情があり、夏休みの終わりぐらいから9月にかけての実施と見込んでいる現状です。

続いて、特別支援教育の件です。手持ちの資料より「特別支援学級の児童生徒数の

推移」についてご説明します。

令和6年度は市内全小・中学校の合計で175名が特別支援学級に在籍していました。これは令和元年度の116名と比較して急速に増えていることが分かります。こちらとは別に、下位児童・生徒のうち、就学指導委員会で審議をして、特別支援学級ではなく通常学級の中に入って勉強した方が良いと判断された児童・生徒について、令和5年度は199名と、平成26年度の90名と比較し、非常に増えている現状もあります。学習支援の改善を図り、学校のニーズを聞きながら支援員に活躍してもらいたいと考えています。

### ■学校教育課参事兼指導主事

続けて、部活動の地域移行の件ですが、令和5年度から令和7年度までを地域移行の推進期間ということで捉えています。実施に当たり、一つは子供たちの希望を叶える点、もう一つは学校の先生方の働き方改革の点からも、進めていかなくてはならないものと考えています。

学校の方では「休日だけでも部活動を地域で実施してもらいたい」と思っていますが、地域の受け皿が見つからないことが悩みであり、この点は市のスポーツ推進課と連携しながら行っていないと進まないものと考えています。

令和7年度に向けて、市内で石神中学校しか男子バレーボール部がなく、小学校の男子バレーボール部で活動をしてきた子供たちが学区外のため中学校での継続が叶わなかったことから、新たにクラブチームを作ろうという動きがあります。

このクラブチームは令和7年4月から稼働できそうだということで、こちらをモデルケースとして、様々な種目において、子供たちがやりたいって言ったときに対応できる状況を作ることができるよう、スポーツ推進課とも連携しながら子供たちが「やりたい」「頑張りたい」という機会・場所を作っていきたいと考えております。

### ■生涯学習課長

続けて、塾に行くことができない方への対応策の件です。

経済的状況の中で行くことができない場合についてですが、親が行かせたいのか、子供が行きたくてもいけないのか、こうした状況も今後十分に見極めていく必要があると思います。

しかし、予算の関係もございますので、この場で「すぐに出来ます」とは言えませんが、今後の状況等を踏まえて、事例研究をさせていただければと思っております。

### ■市長

令和7年度に向けて、こちらから具体的に提案したものに対して、委員の皆様から具体的なご提言を承りました。

事務局においては会議録でしっかりまとめてください。

本日お答え出来るものと出来ないものがあると思います。次回の総合教育会議にて文書で回答しますので、今回ご提言を受けたことをポイントとして記録に残しその上で、回答をお願いします。

特に、例えばハイレベル学習講座の件、夏休み中の実施が可能か、今のところ難しいという説明でしたが、是非業者にあたってください。より効果のある時期に事業を行いたいと思います。

また、塾に行けない子供の支援の件、令和7年度の塾バンク利用者のご意見を伺いながら、塾バンクを利用して塾に行きたい場合、費用の関係で難しいなど、意見が出るかどうか、あるいは利用実態等を見ながら課題を整理していく。

教員への支援については、教育委員会で考えてください。現在、社会人が南相馬に戻って勤めたときの奨学金の免除や3分の1ぐらいの補助制度があります。保育士・看護師はほぼ全額補助していると思います。

こういう中で、ご意見にありました教員になった方への補助も一つの手だと思えます。地元の人が地元に戻ってきて学校の先生になる、こういう人がいっぱいいてくれると委員の皆様としても頼もしいです。

そのための手法の一つとして、現行の奨学金制度がどのぐらい活用されているのか、今の制度をどう直せば充実するのかなど、検討してください。

次の総合教育会議開催時に回答をお願いしたいと思います。

## ■教育長

一つ目の塾との連携事業の件、9月前の実施が可能か業者にあたるとのいうのは良いことだと思います。また、本市は二学期制を導入していますので、休み明けに期末テストが入っています。夏休みをどう過ごすべきなのかというのは学校で指導していますので、それと本事業をうまく合わせるような形で、子供たちの意欲づけに繋がれば良いと思いました。

二つ目の高校との連携の件、毎年高校を回らせていただいて、課題については共有させていただいています。例えば、小高産業技術高校だとコンクールで全国大会に出ていることについて、子供たちに知られていません。

また、相馬農業高校では毎年課題研究発表会を実施していますが、こちらもあり子供たちに知られていません。このようなことも子供たちにも知らせていく必要があると思いました。このほか、原町高校の校長先生とは、子供たちの学力のレベルが偏ってきて授業が大変であることや、先ほど学校教育課長が触れたとおり、原町高校の生徒が小学校や病院に赴くキャリア教育でやっていますので、そういうところで意欲づけが図れればと思います。

諦めない気持ちの育成としては、キャリア教育のところで中学生ボランティア事業や地域学校協働活動事業を令和6年度にモデル事業として実施しましたが、原町第二中学校の生徒たちが自分で手を挙げて、例えばひがし生涯学習センターの夏祭りのお手伝いや高平生涯学習センターで子供たちの学習を見たりしていますが、そういう中で自分が役に立っていることを子供たちが実感することができていると感じますので、令和7年度は全中学校で導入します。

地域学校協働活動事業についても、地域のために何ができるのかを考えることができる体験を重視していきたいと思っています。

塾との連携の件ですが、スタディクーポンというのも選択肢として、塾に通う方た

ちの需要を見ながら考えたいと思います。

教員として南相馬市に戻ってきた方への奨学金の件ですが、教員の場合、配置先は県が決めますので、市内に配置になるとは限りません。

このため、県で採用になった場合認めるのか、それとも何年か後でも南相馬に戻ってきたら認めるのか、その辺が難しいのではないかと思います。

## ■市長

ありがとうございます。

追加ですが、一つ目はPTAと連名で啓発文書を配布する件に関連してですが、子供たちに自分たちが今どういう学力なのかを知ってもらうことも大切だと思います。実際は隣近所の同じ学校の順番だけしか見ていていないかのではないかと感じています。

南相馬市の学力レベルは残念ながら良くないと思います。全国の中で自分たちの学校そのものがどういうレベルなのか、その学校の中で自分がどういうレベルなのか、子供あるいは親御さんに実態を知ってもらうことが大切だと思ったので、啓発文書を作成する際に、入れ込むことができないか検討してもらえないかと思いました。

学力向上の点で言うと、上位の子供はハイレベル学習講座等あるが、下位の子供に対する学校内での対応については強化されていないと感じるので、是非今後考えてほしいです。

二つ目はキャリア教育の見直しの件ですが、総合的な学習の時間で未来志向のキャリア教育など、様々行いたいのは分かります。

ただ、高校を卒業すると半分以上の子は南相馬から巣立ってしまいます。そのときに南相馬へ戻りたくなくなるような気持ちを植え付けておきたいです。そのためのふるさと学の教育はとても大事なので、ここにキャリア教育をプラスするとふるさと学にかける時間の確保は大丈夫なのか。ふるさとへの愛着を持つというのを是非全ての子供に一律に最低限のことをやってもらいたい、レベルを担保できるように工夫してもらいたいと思います。

三つ目は家庭教育の充実のための塾バンクの件、大きな進歩だと思います。

ただ、市ホームページに載せるだけではほとんど使われないと思います。塾の体験授業を受けてもらうとか、あるいは合同説明会・体験で保護者対象あるいは子供を対象に、塾のさわり、塾の特徴を喋ってもらう等の機会を設けられないでしょうか。情報をアップすることに加え、「入口をちょっと覗いてみようかな」と思わせるような仕掛けができればなお良いと思います。

委員の皆さんいかがでしょうか。特に異論がなければ、事務局は次回の総合教育会議までに回答をまとめてください。

最後に、教員の奨学金制度の件。県内の学校に就職すれば認める仕組みも一つ。仮に市内の学校への配属を条件とすると難しいかもしれません。

## ■教育長

市内の学校への配属を条件とすると、特に高校教員の場合は難しいと思います。

## ■市長

南相馬出身の教員が南相馬に戻ってくる状況は良いことだと思います。こちらでも事務局にて回答をまとめてください。

続けて、協議事項「(3) 国際バカロレア導入指針(暫定版)」について、事務局から説明をお願いします。

### (教育企画担当課長 説明)

## ■市長

私が大事だと思っているのは、国際バカロレアは市内小中学校の中からそれぞれ1校を探究型学習の研究開発校として指定し、市内全体へ効果を広げていきたいという点、もう一つは、PYPから始めるために小学校1校を選定して開始したいという点です。

ちなみに令和7年度中には研究開発校を1校選定したいということが今現在の動きです。この1校を選ぶときの考え方は、子供の視点、教育水準の向上の視点、復興再生の視点で一番良いと思われるところを選びたいというところで、そのためには人材確保が必要という流れとなっています。

委員の皆様からご質問・ご意見等ありましたらお願いいたします。

## ■高野委員

令和9年度には認定を取りたいとのことだが、スケジュールに無理があるのではないのでしょうか。

前半の協議事項(1)(2)でも学力向上の点で課題が多い中で、人的な負担も大きいのではないのでしょうか。

## ■教育企画担当課長

まずスケジュール感で言いますと、令和7年度の早い段階で候補校の申請ができるように取り組みを進めてまいりたいと思っております。

校長先生やコーディネーターになっていただく先生に研修を受けていただくようになりますので、資格要件の方を確認しながら、できるだけ早い段階で決めさせていただきたいと考えております。

時間の猶予がない点ですが、標準的な考え方ですとこれまで導入するまで2年程度あれば十分プログラムを進めることができることを聞き及んでいますので、大丈夫かと思えます。ただ、急ぎ過ぎてもよろしくないなので、調整しながら導入を目指して進めていきたいと思っております。

バカロレアについては本来学力向上を目指して取り組むものではないですが、副次的な効果として、導入校では学力向上に効果があるとも聞いております。どうしてそうなるのかと言いますと、考え方が変わる、自分で興味を持って深掘りをするすることで、様々なことにチャレンジする、学習のスタイルが出来上がってくるお子さんが増えてくるということが要因であるようです。

その辺りも研究開発校の方で確認しながら、思考の持ち方を皆さんに波及できるようなプログラムを開発できればと思います。

#### ■市長

人員確保の点でお話します。

先ほど学力向上の取組にかかる課題をたくさん話しました。

このほか、新たな取組を行います。また、バカロレアも本格的になってきます。さらに、学校適正化の話も進んでいます。

こうした中で、今と同じ人員では難しいことは十分承知しております。その上で、令和7年度の人員配置に向けて何とか重点配分しなければならないという問題意識を持っております。

#### ■高野委員

バカロレア導入に際し、地域の保護者へ説明はされましたか。

#### ■教育企画担当課長

研究開発校をどこにするかという方法の部分については、これから検討していきますので、学校に対してはまだ説明はしていない状況です。

保護者の方には、しっかりと説明させていただきながら、また市民の方に対しても説明会等の機会を設けていければと考えておりますので、今後、順次、進めてまいりたいと思います。

#### ■高野委員

いずれ市内全体での実施を目指しているとのことですが、バカロレアという言葉を知らない方が大半だと思いますので、例えば市広報などを通じて、考え方や言葉だけでも伝わるように取り組んではいかがでしょうか。

#### ■市長

ご指摘のとおりだと思います。

導入校は決まっておりますが、道筋や認定までのスケジュールは見えてきましたので、早い段階で市民へお示ししたほうが良いとのご意見ですか。

#### ■高野委員

バカロレアという取組があるということだけでも市民に分かっていただいた方が、後々導入しやすいと思います。

#### ■市長

委員の皆様が、市民の中でも先行してバカロレアについて把握していただいていると思います。

また、市議会でもバカロレアについての研修を行っているようですが、まだまだ市

民の一部ですので、ほどなく市民へ広くお伝えする時期だと思っておりますので、定期的に進捗をお示しする方法を考えていきます。

最後に、追加資料「学校適正化の経過及び進捗状況について」の説明を事務局からお願いします。

(教育総務課長 説明)

■市長

総合教育会議の議題としては以上ですが、皆様から何かございますか。特にないでしょうか。

間もなく令和7年度となりますが、具体的な学力向上策等を担当の方で考えてもらったと思っております。

予算については、これから市議会に提案することになりますし、まだゴールというわけではありませんので、更なる向上を目指して、今回のご意見等も生かしながら、よりよい方向になればよろしいと思っております。

引き続き、次年度でもこうした場において、実施状況等について、ご報告申し上げながら、協議したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■企画課長

令和7年度総合教育会議の予定についてご説明させていただきます。

令和7年度については、令和6年度と同様に2回の開催を予定しております。

令和6年度は8月と1月に開催したところでございますが、協議の内容によっては前後するかと思っておりますので、ご了承いただければと思います。

また、日程については、原則、教育委員会定例会に合わせて開催させていただきたいと思っております。

なお、本日ありました質問事項に対する回答や検討状況については、次回の総合教育会議にて、確認させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

■市長

皆様、本日はありがとうございました。

午後 3時30分 閉会